豊川
直轄改修工事着手から80年
～地域の安全・安心と発展を支える～

1904～1944

年	豊川関連事項		東三河の出来事	
1904（M37）		明治37年7月10日 豊川洪水 石田水位9.06m、 約6,000㎥/s		
1912（T元）			4.10	蚕業試験場豊川支所が設置 「新城橋」が完成
1913（T2）				
1914（T3）		豊川改修運動始まる		
1915（T4）				
1916（T5）			7.	「豊橋」が鉄橋（3連トラス）に架替
1917（T6）		愛知県において豊川局部改修に着手		当古渡船が県営となる
1918（T7）			8.15	豊橋市に米騒動起こる（豊橋市が米1升24銭で放出） 豊川方面にも波及する
1919（T8）				
1920（T9）			10.29 12.25	ヒョウ害のため稲作に大被害 積雪8寸余り（約25cm）
1921（T10）				
1922（T11）		豊川調査測量開始	11.11	国分寺銅鐘国分尼寺寺址、国の重文に指定
1923（T12）	6.9	豊川大洪水、当古橋にて23尺5寸、石田水位6.51m	12.8	豊橋市電（豊橋電気鉄道（株））資本金50万円で設立
1924（T13）	5.	豊川改修促進期成同盟会結成、工事の早期着手を陳情		
1925（T14）				豊橋市内電車開通
1926（T15～S元）			4.1	愛知電鉄、東岡崎～小坂井間開通、神宮前～豊川間 直通運転 「新城橋」が架替
1927（S2）		内務省土木局にて豊川改修計画作成 放水路案総工費920万円	6.11 11.	愛知電鉄、神宮前～吉田（豊橋）間全通、 特急運転始まる 昭和天皇豊橋市へ行幸
1928（S3）	8.7 8.20	豊川新城橋以下施工河川に認定 支川江川1.8km以下施工河川に認定	11.28	豊橋市役所全焼
1929（S4）	8.16	台風により豊川洪水、石田水位6.36m	11.	三河産業博覧会開催
1930（S5）			3. 3.20	豊橋市上水道完成、名古屋市についで県下2番目 豊橋市において全国産業博覧会開催（2ヶ月間）
1931（S6）			10.20	豊橋市公会堂竣工
1932（S7）			9.1	大村が豊橋市に合併
1933（S8）			8.	全国的に異常干ばつ 渥美郡一帯も被害
1934（S9）			12.16	当時県下一のトンネル設楽町の堤石トンネル完工 「当古橋」が完成
1935（S10）	8.28	台風により豊川洪水。石田水位5.65m		
1936（S11）	1.17	激寒氷点下6度、豊川氷結する 豊川放水路計画が再検討され総工費850万円となる	1. 4.28	三河地方に降雪20日間、明治22年に県測候所開設以来最長記録 瓜郷貝塚発見(豊橋市)
1937（S12）	4.1 7.13	国道豊橋地区道路改築に着手 豊川洪水、浸水2,600ha、国道浸水1.8m、石田水位6.50m	5.10 6.18 8.20	北設楽郡茶臼山の放牧場が山火事 指頭大のヒョウにより農作物被害 三信鉄道の三河川合～天竜峡間が開通、これにより 豊橋～飯田間が全線開通
1938（S13）	5.16 11.11	内務省名古屋土木出張所豊川改修事務所設置（豊橋市西八町）、豊川の改修に16カ年継続事業として着手 豊川改修事務所庁舎新築移転（豊橋市三ツ相町）	7.	集中豪雨により東海地方全体に大水害発生 「江島橋」が完成
1939（S14）	4.18	豊川河口から国鉄橋までのしゅんせつ進む	6. 12.15	三河地区大干ばつにより農作物に被害 豊川海軍工廠設置
1940（S15）	8.1	豊川放水路の用地買収に着手		
1941（S16）	7.12 12.	豊川洪水豪雨禍浸水340ha、石田水位5.75m 太平洋戦争より工事中断	7.10	豊橋、岡崎、一宮、半田、瀬戸の県下5市も六大都市なみに米穀配給通帳制になる
1942（S17）	9.1	内務省名古屋土木出張所、豊川改修事務所は中部土木出張所、豊川工事事務所と改称		
1943（S18）	1.16 4. 11.0 11.1	前芝出張所開設 豊川放水路（前芝村～国鉄橋）工事着手 矢作川工事事務所及び豊川工事事務所はそれぞれ岡崎工事事務所及び豊橋工事事務所と改称 名静国道第一工事事務所を廃止し豊橋工事事務所へ統合	6. 1 8. 1	豊川市市制施行 豊川、鳳来寺、三信、伊那の4地方鉄道が国鉄の飯田線となる
1944（S19）	8.7	台風阪神地方上陸、豊川出水、石田水位6.95m	11.	御油、松並木国の天然記念物に指定

豊川
直轄改修工事着手から80年
～地域の安全・安心と発展を支える～

1945～1965

年	豊川関連事項		東三河の出来事	
1945 (S20)	7.21 ●．●	豊川洪水、石田水位6.95m 豊川放水路の用地買収16年から90%終わる 大崎工事事務所を廃止し豊橋工事事務所へ統合	1.13 8.7	三河地震が発生、県下死者2,252人、全壊5,233戸 豊川海軍工廠にB29延べ120機、学徒動員を含み 死者2,477人、負傷者約1万人
1946 (S21)	4.1	行明かんがい用水150PSポンプ工事着手、堤防切割り	10. 11.15	昭和天皇豊橋市へ行幸 愛知大学開学
1947 (S22)	6.8	豊川、異常渇水	10.1	戦後初の国勢調査、愛知県人口313万115人、名古屋 市85万人、豊橋市約13万人、岡崎市約8万5千人
1948 (S23)	1.1 7.10	内務省管制廃止により総理府建設院中部地方建設局と改称 建設省設置法が公布され建設省中部地方建設局豊橋工事事務所及び岡崎工事事務所を設置	5.16 8.	名鉄、豊橋～新岐阜間直通運転開始 豊橋球場オープン
1949 (S24)	6.1	岡崎工事事務所を廃止し豊橋工事事務所へ統合	9. 11.	豊川用水の前進である農林省直轄国営農業水利事業 発足 豊橋陸上競技場オープン
1950 (S25)	7.13 8.29	豊川改修期成（豊橋市）同盟会発足 豊橋工事事務所を三河工事事務所と改称　旧岡崎庁舎の増築着手	3.30 9.3	国鉄初の民衆駅豊橋駅が完成 ジェーン台風、豊橋市二川町にたつまきが発生
1951 (S26)	7.16	三河工事事務所を分割し豊橋工事事務所、岡崎工事事務所を設置	12.	桜淵公園が県立公園となる
1952 (S27)	12.26	前芝大橋下流に特殊堤、荷揚場施工	3. 12.	豊橋市養老院開設 天竜・東三河地域が国土総合開発特定地域に指定
1953 (S28)	6.9 9.25	放水路、用地再補償について地元と協議（於豊橋市役所） 豊川総体計画検討28年度以降 本川107,000万円、放水路190,000万円、計297,000万円	7.21 9.25	東海道線名古屋～浜松電化 台風13号により、神野新田をはじめとした海岸堤防が各所で決壊、広範囲に浸水し多大な被害発生
1954 (S29)	1.1 2.6 9.18	13号台風による海岸堤防復旧に着手 豊川放水路用地の再補償問題解決、調印式、知事を立会人として局長と市町村長で覚書交換 台風14号により、豊川洪水、石田水位4.76m 流量約1,800㎥/s	3.20 6.	吉田城跡で豊橋産業文化大博覧会が開催（2ヶ月間） 豊橋動物園開園
1955 (S30)	11.16	愛知県知事放水路視察	4.1 10.10	1号国道改築工事はじまる 愛知用水公団設立
1956 (S31)	4.1	豊川出張所開設（豊川市正岡町）	7.4	国道1号起工式祝賀式（於豊橋公会堂）
1957 (S32)	4.1 4.5	国道豊橋地区改築完了にともない道路関係を名古屋 国道工事事務所に移管 豊川放水路上流部の工事本格的に着手		
1958 (S33)	8.26	台風17号により、豊川洪水、石田水位6.32m、流量約3,100㎥/s	3.28 11.1 12.6	三河湾国定公園に指定、県下初 新城市、市制施行 豊川用水宇連ダム完成 「前芝大橋」が完成
1959 (S34)	7.10 9.26	豊橋工事事務所が優良工事事務所として大臣表彰される 台風15号（伊勢湾台風）により、豊川出水 石田水位6.48m、約3,200㎥/s	10.15	「吉田大橋」が完成
1960 (S35)	4.1	豊川放水路、土研にて模型実験はじまる	12.14	「小坂井大橋」が完成
1961 (S36)	8.5	豊川用水大野頭首工完成	9.16	豊川用水事業を愛知用水公団が事業承継
1962 (S37)	7.28	台風7号により、豊川洪水、石田水位6.55m、流量約3,300㎥/s		
1963 (S38)	4.1 4.1 4.1 7.17	豊川出張所が移転（豊橋市大村） 豊川の高潮堤完成 豊川石田の基本高水流量4,700㎥/s、計画高水流量4,100㎥/sに改定（38年以後豊川総体計画92億円） 豊川放水路分流堰起工式	7.	東三河工業整備特別地域に指定
1964 (S39)	5.17 7.1 10.	豊川放水路分流堰定礎式 矢作川工事事務所を廃止し豊橋工事事務所へ統合 豊橋工事事務所庁舎増築	4.2 7.3	三河湾重要港湾に指定 工業整備特別地域整備促進法に東三河地区が指定される
1965 (S40)	1.2 4.1 4.1 5.27 7.13 8.1 9.18 11.19	豊川右岸、大村、当古、三上、二葉の霞堤締切着手（S41年度完成） 新河川法の施行により豊川、矢作川とも二級水系となる 間川改修工事に着手 台風6号により豊川洪水。放水路に流入する 豊川放水路工事 完了 一宮出張所開設(一宮町) 台風24･25号により豊川洪水。石田水位6.83m、流量約3,000㎥/s、豊島地区で旧堤決壊 豊川水系間川の用地買収に着手		

豊川
直轄改修工事着手から80年
～地域の安全・安心と発展を支える～

1966～1987

年	豊川関連事項		東三河の出来事
1966 (S41)	2.16 4.1 4.1 4.22	「塚田、柑子橋」渡り初め 豊川放水路管理出張所が開設 豊川水系が一級水系に指定され豊川水系工事実施基本計画が策定される 中野、辻田、松下、曽我技官「豊川低水流量観測器具改良」により科学技術庁長官より表彰される	2. 3. 8. 10.12 12.	東三河農業経済圏整備地域指定 「賀茂橋」が完成 豊橋市制60周年を迎える 豊橋市、田原町にて集中豪雨（時間雨量149m） この豪雨により朝倉川で警察官7名が亡くなる 伊良湖国民休暇村が完成
1967 (S42)			7.	石巻山腹に自然科学博物館オープン
1968 (S43)	1. 8.29	豊橋市街地狭さく部工事着手 台風10号により豊川洪水、石田水位 7.24m、約3,400㎥/s 支川杉川の決壊などにより多くの被害	2.29 3. 5.1 10.1	三ヶ根山スカイライン完成 牟呂松原頭首工完成 豊川用水完成 愛知用水公団、水資源開発公団へ統合
1969 (S44)	4. 8.5	豊川本川下流狭さく部対策に着手 台風7号による豊川洪水、石田水位8.04m、約4,600㎥/s（戦後最大） 旧一宮町江島及び支川杉川の堤防決壊により多大な被害	1.10 8.	天竜奥三河国定公園指定 豊橋駅前地下公共駐車場バスターミナル横断地下道完成
1970 (S45)			4.1 7.18 10.29	県営東三河水道用水供給事業発足 南設楽郡鳳来町に県民の森開設 三河資料館完成
1971 (S46)	3.	豊川水系工事実施基本計画改訂 豊川石田の基本高水流量7,100㎥/s（1/150）計画高水流量4,100㎥/sに改訂	4. 8.14	「金沢橋」が完成 鳳来寺山パークウェー開通
1972 (S47)			5.	豊橋港が開港
1973 (S48)	6.~8	豊川異常渇水	1.9 4.1	三河湾スカイライン開通 本宮山スカイライン全通
1974 (S49)	4. 7.7	朝倉川2条7号区間着手 台風8号により豊川洪水、石田流量約3,800㎥/s		
1975 (S50)			5.30	豊橋で「530(ゴミゼロ)運動」スタート
1976 (S51)	6.	古川排水機場第1期工事完了	10.1	豊橋技術科学大学設立
1977 (S52)	9.~	豊川渇水（S52.9～S53.7）	3.	「江島橋」が完成
1978 (S53)	4. 4.	設楽ダム実施計画調査着手 神田川2条7号区間の改修に着手 豊川渇水(S53.8～S56.9）	3. 4.18 12.19	「下条橋」が完成 茶臼山高原道路（面ノ木～茶臼山間）開通 豊川市キュパーティノ市（アメリカ）と姉妹都市提携
1979 (S54)	2.15 4.6 4. 10.19	事務所庁舎新築（豊橋市中野町）に着手 設楽ダム調査事務所設置 賀茂霞堤築堤延長 台風20号により豊川洪水、石田水位7.42m、約4,400㎥/s	2.21	「新城橋」が完成
1980 (S55)	4. 6.25	「豊橋」改築工事に着手 設楽ダム調査事務所新城市へ移転 豊川渇水(S53.8～S56.9）	11.	「三上橋」が完成
1981 (S56)		豊川渇水(S53.8～S56.9）	3. 7.12	豊橋市と田原町にまたがる三河港上の港大橋完成 旧渥美町で竜巻 住家被害7棟
1982 (S57)	8.3 12.21 7.	台風9号による洪水、石田水位 6.00m、約2,900㎥/s 豊橋工事事務所新庁舎(豊橋市中野町)完成、移転 豊川渇水（22日間）	9.12 11.11 11.30	台風18号三河地方に襲来 旧田原町で竜巻 住家被害7棟 豊橋市で竜巻 住家半壊1棟
1983 (S58)	1.25	豊橋工事事務所新庁舎開所式	2.23 4.	豊橋市中央図書館開館 豊橋短期大学開学
1984 (S59)	1.～	豊川渇水（1月～159日間、8月12日間、10月~60.3月）		
1985 (S60)	1.28	豊川渇水、豊川用水の水ガメ、宇連ダムの貯水率ゼロ 佐久間緊急導水（S60.1.28~2.9）	4.24 7.6 8.20	県営新城総合公園開園 音羽蒲郡有料道路・清田トンネル貫通式 通産省のニューメデア構想モデル地域に豊橋市が指定
1986 (S61)	2.～ 3. 8. 9.3 12.5	豊川渇水、（39日間） 朝倉川改修工事概成 「豊川渇水（S 61. 8. 28 ～ S62.1） 森岡導水施設からの緊急導水（61. 12. 6 ～ 12. 20） 台風15号御前崎上陸、宇連ダム貯水率50%に回復 「豊川渇水、豊川緊急渇水調整協議会発足	4.14 10.16 12.19	「豊橋」が豊橋市市制80周年記念式典開催 旧赤羽根町で竜巻。負傷者1名、住家被害46棟
1987 (S62)	5.26 6.12 8. 9.25 10.1	豊川左岸湊町、関屋町親水護岸のデザイン推進委員会の発足 豊橋工事事務所開設50周年記念行事、歴代所長及び植田改修期成同盟会長座談会 豊川渇水 節水期間S62.8.24～S63.5.24 豊川今橋環境護岸（遊歩道）工事着手 豊川親水護岸工事着手	10.16	豊橋市、南通市（中国）と友好都市提携

豊川
直轄改修工事着手から80年
～地域の安全・安心と発展を支える～

1988～2002

年	豊川関連事項		東三河の出来事	
1988（S63）	3. 3. 3. 4. 4.1 7.22 8.	豊川渇水、本川から緊急取水（三上橋 3. 8～3. 12） 豊川本川下流狭さく部対策概成 間川改修工事概成 豊川本川(牛川地区)狭窄部対策に着手 豊川左岸親水護岸完工式 豊川改修50周年記念式典 古川排水機場 第2期工事完了	4.14	旧東海道「御油松並木資料館」オープン 豊橋自然史博物館開館
1989（S64 H元）	8.11 8.23 12.29	豊川でアユ大量死 豊川渇水(9日間)豊川用水１年３ヶ月ぶりの節水規制 豊川今橋環境護岸工事完了	2.21 9.1	奥三河サミット開催 県総合防災訓練（メイン会場新城市）
1990（H2）	2. 3. 5. 8. ～	豊川水系の水資源開発水系(フルプラン水系)指定 豊川水系河川環境管理基本計画策定 豊川水系における水資源開発基本計画の閣議決定 豊川渇水（42日間）	3.24 10.31	田原町と津具村が姉妹提携調印式 県総合防災訓練（設楽町）
1991（H3）	2.21 4.16 7.31 8. ～ 8.31 9.18 9.18	豊川水系水質汚濁対策連絡協議会発足 多重無線回線（豊橋～本宮間）のデジタル化完了 豊川江島地先ラブリバー制度に認定 豊川渇水、(27日間) 豊川放水路光ファイバー布設及びTV監視を開始 豊川北島地先水防拠点整備に着手 台風20号による洪水、石田水位5.98m、約2,700㎥/s	3.3 3.11 8.1	富山村がふるさと創生資金で温泉を発掘 豊橋市の市電愛好団体が、「市電の日」を制定 豊橋市の二川宿本陣資料館オープン
1992（H4）	4. 8.1 8. 9.～ 10.1 10.27	豊川流況総合改善事業に着手 豊川江島地先ラブリバー支援工事に着手 豊川渇水（17日間） 豊川渇水（55日間） 豊川牛川地先築堤工事に着手 設楽町と建設省が知事立合のもと、「設楽ダム実施計画調査の現地立入り調査協定書」に調印	3.20 4.24 5.1 5.9 8.5	豊橋警察署新庁舎が完成 魅力的で住みよい都市に豊橋が全国２位に～東洋経済新報社データパック 豊橋港が開港 20 周年 基幹道路の促進、接続へ三遠南信伊勢地域が連携　５市の会頭が初会合 豊川用水通水 25 周年－豊橋で式典－
1993（H5）	2.23 3. 3.30 4. ～	設楽ダム　現地調査に着手 豊川出張所新庁舎に移転 河川ハイテクパトロールカー導入（全国初の情報処理 装置付きパト） 豊川渇水（65日間）	6.5 6.19 8.9	「東海幹線道路調査事務所」が開設 豊橋市の人口35万人突破、市制施行以来87年目で達成 県知事が東三河19市町村を県内初の「地方拠点都市地域」に指定。
1994（H6）	6. ～ 7.19 8.30 9.9 9.13 9.29	豊川渇水（31日間） 豊川用水が過去最大の節水（給水制限）で、第三次節水へ 豊川江島ラブリバー支援工事完了 豊川渇水、豊川用水で第五次節水開始 豊川渇水、佐久間ダムからの緊急導水により断水延期 台風26号による洪水、石田水位6.0m、約3,000㎥/s	2. 9.29	東三河地方拠点都市地域基本計画策定される 台風26号に伴う竜巻が豊橋、蒲郡で発生、負傷者7名、住家被害58棟
1995（H7）	2. ～ 8. ～ 8.28 10.26	豊川渇水（74日間） 豊川渇水（8月～ H8.3、235日間） 豊川渇水、第四次節水（豊橋市民プール緊急閉場） 豊川放水路完成30周年記念式典	2.28 5.30	東三河地域の渇水対策として、東海農政局が大原調整池（新城市）から緊急放水（3月10日から豊橋市の万場調整池からも緊急放水） 豊橋市で「530（ごみゼロ）運動」20周年記念大会
1996（H8）	2.1 2.29 3.27 5. ～ 8. ～	豊橋市洪水ハザードマップ公表 宇連ダム（鳳来町）の貯水率が、渇水でこの冬最低8.1%まで落ち込む 豊川前芝町地先堤防耐震対策工事に着手 豊川渇水（63日間） 豊川渇水（119日間）	1.17 5.4 6.5 8. 9.16	県東三河総合庁舎の完成 豊橋市の新市民病院オープン 豊橋市の新市庁舎竣工式（地上13階、地下2階） 牟呂松原頭首工改築 豊橋駅の橋上駅舎オープン
1997（H9）	3. ～ 3. 9. ～ 10.31	豊川渇水（50日間） 豊川東上霞堤締切完了 豊川渇水（84日間） 豊橋工事事務所・放水路管理所間光ケーブル布設着手	3.16 4.24 6.2 8.30 10.28 11.11	県東部を中心に、マグニチュード5.6の強い地震。震度5強を豊橋で記録。 100%豊川用水に頼る蒲郡市に、有効貯水量50万tの 蒲郡調整池が完成し通水開始 台風7号、豊橋付近に上陸 県総合防災訓練（田原町の白谷海浜公園）　東海地震の津波を初めて想定し、陸・海・空から過去最大規模で実施 「大島ダム」（総貯水量1,230万t） 定礎式 豊川用水30周年感謝の集い
1998（H10）	2.27 4. 5. 7.7 8. 11.5 12.15	豊川が洪水予報指定河川に指定 寒狭川堰本格運用開始 大野頭首工下流の流況改善の試験通水開始 「豊川KAWAKKO資料館」開館 豊川渇水（10日間） 豊川改修60周年歴代所長座談会 「豊川の明日を考える流域委員会」開催	2.19 4.2 11.12	豊橋市内の路面電車が約150m延伸し、豊橋駅に乗り入れ、総事業費3億5千万円 新城市で「全国さくらシンポジウムin 新城」が開幕 新城市で「新城サミット」開催
1999（H11）	12.	豊川水系河川整備計画基本方針を策定	7.16 9.24	豊川市中央図書館 完成 豊橋市・旧小坂井町内で竜巻発生、合計４つの竜巻により重軽傷者457名、住家被害2571棟に及ぶ被害
2000（H12）	9.12 5. ～	台風14号による洪水、石田水位5.44m、約2,700㎥/s 豊川渇水（28日間）	12.4	羽田八幡宮 社務所離れ、宮蔵、宮門が国の登録有形文化財に指定(豊橋市)
2001（H13）	3. 5.～ 11.	古川排水機場　第3期工事完了 豊川渇水（119日間） 豊川水系河川整備計画（大臣管理区間）を策定	●．● 3. 3.	大島ダム　完成 仁崎海水浴場「日本の水浴場88選」に選定 国道420号新段戸トンネル 竣工(豊田市)
2002（H14）	6. ～ 8. ～	豊川渇水（14日間） 豊川渇水（40日間）	4.25 1.21	テーマパーク「ラグナシア」開園 旧田原町で竜巻発生、住家被害26棟

豊川
直轄改修工事着手から80年
～地域の安全・安心と発展を支える～

2003～2018

年	豊川関連事項		東三河の出来事	
2003（H15）	3. 3. 3.7 4. 8.9	豊川本川（牛川地区）狭さく部対策概成 豊川流況総合改善事業が完了 耐震対策として清須地区堤防補強工事に着手 設楽ダム建設事業に着手 台風10号による洪水、石田水位6.92m、約3,400㎥/s	3.30 8.20	蒲郡市の片原漁港大橋（ブルーブリッジが開通 渥美郡田原町と赤羽根町が合併して田原市が誕生
2004（H16）	6.21 10.20	台風6号による洪水、石田水位6.21m、約3,000㎥/s 台風23号による洪水、石田水位5.5m、約2,400㎥/s	8. 9.29	蔵王山展望台 が「日本の夜景100選」に選定 豊橋市で竜巻発生、負傷者3名、住家被害157棟
2005（H17）	6.6 6. ～	総合流域防災協議会　発足 豊川渇水（72日間）	7.1 9.30 10.1	鳳来寺山パークウェイ　無料化 国道23号豊橋バイパス　豊川橋無料化 渥美町が田原市に編入合併
2006（H18）	2. 3.28 4. 9.22	「豊川水系における水資源開発基本計画」全部変更閣議決定 耐震対策として清須地区堤防補強工事　完了 豊川水系河川整備計画（大臣管理区間）を一部変更 大村地区堤防整備工事に着手	2.1 2.1 3.25	三河湾スカイライン　無料化 本宮山スカイライン　無料化 東三河ふるさと公園　開園
2007（H19）	3.28 6. 7.15 10.15 11.19	内水対策として小坂井排水機場の改良工事　完了 「豊川水系設楽ダム建設事業環境影響評価書」を公告 縦覧 台風4号による洪水、石田水位5.63m、約2,400㎥/s 第1回三河湾流域圏会議開催 「とよがわ防災減災フォーラム」開催	12.5	旧豊川電話装荷線輪用櫓 旧豊川電話中継所 国の登録有形文化財に指定
2008（H20）	10.	設楽ダムの建設に関する基本計画を告示 （工期：平成32年度、事業費：2,070億円）	6.9	豊橋ハリストス正教会　聖使徒福音者馬太聖堂国の重要文化財に指定
2009（H21）	1. 2. 3. 8. 8.8 12.	設楽ダムを水源地域対策特別措置法に基づくダムに指定 設楽ダム損失補償基準妥結、ダム建設同意調印 設楽ダム水源地域整備計画決定 設楽ダム道路工事に着手 一鍬田地区の低水路拡幅に着手 設楽ダムが検証の対象とするダム事業に選定	3.12 6.	道の駅　田原市あかばね口コステーション　オープン 国道151号市原トンネル 竣工(東栄町)
2010（H22）	9. 11.	設楽ダム　ダム検証に係る検討の指示 「第1回設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」を開催（第5回：H25.2まで開催）		
2011（H23）	6.1 7.12 7.19 9.21	豊川・矢作川アダプト（協働管理）制度 本格運用 台風6号による洪水、石田水位5.59m、約2,400㎥/s 大村地区堤防整備　完了 台風15号による洪水、石田水位7.61m、約4000㎥/s （戦後2番目・平成最大の洪水）		
2012（H24）	6.19 9.7 9.22	台風4号による洪水、石田水位5.28m、約2,500㎥/s 河川堤防に海抜表示（県内初） 豊川放水路分流堰耐震工事に着手	3.4 4.1 10.17 12.1	三遠南信自動車道　鳳来峡IC ～浜松いなさ北IC開通 豊川市スポーツ公園開園 国道23号豊橋バイパス 前芝IC ～豊川為当IC間 開通 音羽蒲郡道路　無料化
2013（H25）	3.13 3.25 7.～ 8.28 9.16	水質事故「豊川放水路右岸 平井排水機場内及び付近 の放水路（豊川市平井町字安原地先）で魚大量斃死発見（約1,000匹）、シアン化合物を検出」 豊川放水路分流堰耐震工事　完了 豊川渇水（54日間）5回にわたる節水対策実施 一般社団法人日本建設機械レンタル協会中部支部と災害協定を締結 台風18号による洪水、石田水位5.51m、約2,500㎥/s	11.15	田峯小学校（設楽町）普通教室棟と特別教室棟が国の有形文化財に指定
2014（H26）	4.25 7.	設楽ダムに関する国土交通大臣による対応方針「継続」の決定 豊川渇水（10日間）	3.	国道473号岩古谷トンネル 竣工（設楽町）
2015（H27）	3.14 12.8 12.12	一鍬田地区の低水路拡幅　完了 豊川放水路完成50周年記念シンポジウム開催 豊川放水路完成50周年記念式典 開催	3.21	道の駅　もっくる新城 オープン
2016（H28）	3.2 7.12 9.	豊橋河川事務所とCCNetが映像提供協定調印式 「豊川水防災サミット」 開催 設楽ダム基本計画（第1回変更）告示 工期：平成38年度、事業費：2,400億円	1.27 2.13 3.6	道の駅（仮称）とよはしが国土交通省重点道の駅に選定 新東名高速道路新城IC開通 小坂井バイパス無料開放
2017（H29）	3. 4. 5. 5.1 11.7	設楽ダム転流工　工事着手 霞堤地区 用地取得に着手 「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく豊川の減災に係る取組方針策定 緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信を開始 豊川放水路分流堰設備修繕工事 着工	8.8 11.25	豊橋市から豊川市にかけ竜巻発生、 負傷3名、住家被害67棟 蒲郡市国道247号中央バイパス 全線開通
2018（H30）	5.9 7.25 9.30 11.14 12.23	「豊川圏域大規模氾濫減災総合サミット」開催 豊川水系流域委員会 設置 台風24号による洪水　石田水位7.20m（平成2番目の出水） 豊橋創造大との連携・協力に関する協定締結 豊川圏域水防災シンポジウム開催	6.9 9.29	豊川市豊川海軍工廠平和公園　開園 豊川用水通水50周年記念式典